

会議録（会議結果概要）

名称	第4回 各務原市総合計画審議会
開催日時	令和5年11月14日（火） 9：30～12：00
開催場所	各務原市役所 本庁舎 4階会議室4-3・4-4・4-5
出席者	北角浩一会長、富樫幸一副会長、平野華織委員、阿部雄介委員、井戸輝雄委員、宇野貴昭委員、可兒正則委員、近藤亜矢子委員、篠田勲委員、中野正勝委員、松浦知恵委員、森田宏委員、横山浩之委員、和智陽子委員、五明竜也委員、鶴飼明男委員、江口佑美委員、亀井篤委員、林佳廣委員、別宮理恵委員、吉田明弘委員 ※欠席者：柴崎建委員、酒井聡委員、福島茂委員、河合正嘉委員
議題及び 審議・協 議結果等 の概要	<p>次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 テーマ別意見交換 3 その他 4 閉会
	<p>1 開会</p> <p style="padding-left: 20px;">事務局より説明</p> <p>【会長】</p> <p>皆様におかれましては、ご多忙の中、第4回各務原市総合計画審議会にご出席賜りありがとうございます。本日は4回目の総合計画審議会の開催になりますが、全8回の開催を予定しており、本日が折り返しということになります。これまで皆様にご議論願いました基本構想（素案）は基本構想（案）として12月の市議会で審議されます。</p> <p>本日は今後予定しております基本計画の検討につなげることも念頭に、テーマごとに将来のありたい姿についてグループ対話方式により意見交換する場とさせていただきます。前回の会議よりも少人数で時間も十分確保できますので、積極的に意見をいただき、今後の総合計画のたたき台をつくる上で参考にさせていただきたいと思っております。積極的なご意見をお願いできればと、そして有意義な時間としていただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>2 テーマ別意見交換</p> <p>【会長】</p> <p>テーマ別意見交換の概要について事務局より説明をお願いするとともに、意見交換の進行をお任せする。</p>

《事務局より説明》

第4回総合計画審議会開催概要により説明

【会長】

テーマ別意見交換に入る。

《テーマ別意見交換の意見内容》

『ひとを育む』グループ（①子ども、②教育）

【委員】

- ・ 「子ども」に関して各務原がどうありたいかについて意見交換をした。
- ・ 一言で言えば、もっと市民がつながる仕組み作りをしたいという内容であった。
- ・ 子育て世代の横のつながりの他に、見守り隊などの活動をする自治会の方がいて、子どもとベテラン層との関わりも貴重で意義があるものである。それをさらに深めるつながりづくりや、子供会、スポ少、自治会、PTAなどの今ある団体は少し活動等が減少気味で、活力を強めていくために行政のサポートがあると良い。
- ・ 親同士がお互いに悩みを分かち合える場所や、男性がさらに育児参加できる機会も増えていくと良い。
- ・ 子育て世代は共働きも増えて忙しく、いろいろな悩みを抱えていながら、つながれない、いろいろな場に参加しない世帯も増えているので、そういう子育て世代をどのように市民同士のつながりに巻き込んでいくかの方法を考えていかなければいけない。
- ・ 先日の「学びの森フェスティバル」のような子どもが集まる大きなイベントは非常に良い学びの機会で、学生などの若い人たちが多く集まって有意義な一日を過ごすことが出来た。子どもが集まるような環境や機会を今後さらに多く設けていくと良い。
- ・ このグループの委員は、それぞれ自分の団体での活動を深めているが、お互いの団体の活動内容を知らないということを感じた。市の中でいろいろな団体がいろいろな企画や取り組みをしているが、団体同士のつながりの機会がないので、今後は子どもを取り巻く団体同士がつながりを深めて、重なり合うところは一緒に活動するなど、そういったところにも市のサポートをいただきたい。
- ・ 「教育」の分野での目指す姿としては、もっとお互い顔を見て対話が生まれる教育の場の創設を目指したいという意見となった。
- ・ 市民同士のつながりが生まれる教育の仕組み作りがより求められるので、例えば外国籍の方が同じ市民として生活しているが、同時にその子どもも学校教育、幼児教育の現場の中で増えている。多文化交流の面から同じ市民として日本人と外国人とのつながりも大事で、外国籍の人は言葉の壁もあり、市内に住

んでいても孤立感、孤独感がある方もいるので、外国人同士のつながりにも目配りが必要である。そういう文化交流で人が集まることで、そこに関わる子どもたちも自然にいろいろなことを学ぶことにつながるため、教育環境を地域の中で作れると良い。

- ・子どもの教育現場については、学校に行きにくい子どもが増えているという現状もある。子どもの居場所を増やし、いろいろな特性の子を取りこぼすことのない環境作りが今後引き続き求められると同時に、既存の教育現場の中で一生懸命頑張って勉強している子どもたちのより豊かな学びの保障も必要であり、この両方についての目配りが必要である。
- ・困っている子どもの受け皿を増やすことに注意が向きがちだが、今の学校現場で学んでいる子どもたちの教育をより豊かにすることにも、同じように目を向けていかなければならない。
- ・学校や教育に関しては、校長先生、教頭先生との話し合いが多くなるが、できれば子どもたちと実際に向き合っている先生方と話し合いをしながら、地域の中で子どもの教育をどう充実させていくかについて一緒に考えていきたい。
- ・スポーツ自体が教育の一つの場であり、ホッケーをはじめ子どもも大人も健康につながるスポーツ人口をより増やしていきたい。
- ・部活の地域移行が進み部活離れも増えているが、市内で子どもも大人もスポーツを楽しみ、触れあうことで、対話やつながりが生まれると良い。
- ・いろいろな取り組みや団体が市内にあるが、子どもの領域をはじめ、団体同士がつながって、一緒に話をしたり考えたり、お互いの活動を紹介し合う機会をより多く求めていくことで、市全体のいろいろな団体同士のつながりを深めることから市民のつながりに発展していけたら良いので、行政の方にもサポートしていただきたい。

『くらしを守る』グループ（①健康福祉、②安全安心）

【委員】

- ・高齢化は悪いことではないと思っている。

【委員】

- ・各務原市の高齢化率が現在 30%弱くらいで、東の鵜沼地区と川島地区、那加地区でアンバランスになっている。特に鵜沼地区のバランスが非常に悪く、バランスを考えた高齢化対策が必要である。10 年後どうなっているのかと考えると怖い部分もある。
- ・国も関係することだが、社会保障全般の予算配分を適切に行っていくべきだ。

【委員】

- ・社会福祉協議会は、いろいろな地域の団体の協力を得て地域福祉活動を進めている団体である。自治会長、民生委員、シニアクラブなど様々な方に参加、協働していただく協議会で、ボランティアハウス、17 地区を連合会の単位とした

地区社協、また近隣ケアグループも行っている。

- ・高齢化率の話も出たが担い手不足を痛感している。民生委員、自治会長のなり手がいないので、出来る方が少しずつ、高齢化率が高いところでも、住民が支え合い活動、交通手段、買い物支援などを緑苑や八木山で進めているので、お互いが支えられる側、支える側ではなくて、その垣根を超えた交流をしていくのが大切と改めて感じた。
- ・担い手不足を補完する役割としてデジタルの活用もある。
- ・新たな団体を作ることも大切と思うが、既存の団体を組み合わせることもキーになると感じた。

【委員】

- ・民生委員は児童委員を兼ねており役割が多いが、民生委員一人で町内全部を見るのは大変である。社協の中にある近隣ケアや自治会、自治会長に助けていただいで活動しており、子どもの見守り活動も一緒にさせていただいている。
- ・自治会や子ども会に入る方も少なくなる中で、町内の盆踊りや祭などの楽しい行事があると参加をしていただけるはずなので、そういうものに取り組む人を作っていかなければならない。そうすることによって、隣近所の支え合いが出てきて、自治会の加入率も 100%、子ども会の加入率も 100%、そして隣近所が支えられるようになっていくと思った。

【委員】

- ・行政側としては、デジタルトランスフォーメーション、ICT、インターネットによりマンパワーではできないものをフォローしていき、市民にはそれらを使いこなすという教育を繰り返し行なっていくことが大事だと感じている。

【委員】

- ・春からこちらで勤務しているが、見守り隊の活動は素晴らしく、充実していることに感動した。
- ・高齢者のニセ電話詐欺の被害は岐阜市と同じくらいの件数があり、高齢化が非常に関係してくると思う。
- ・情報発信のためのネットワークを活用できないかというところで、健康の部分でいろいろと活用されているのを知ることができた。安全安心につなげる情報発信をできれば良いと感じた。

【副会長】

- ・人のつながりづくりが難しい現状にある。高齢化も進んでおり、自治会に入らない方もいるからである。何か一緒になって活動できるとか、楽しいことがあれば、人が集まってくるかもしれない。高齢化が進んでいる団地、比較的若い人がいる川島の辺り、地域の違いもあるが、人口も同様で 20 年 30 年先をイメージしながら、これからのまちづくりを進めることが大切であり、関連するいろいろな取り組みが紹介できると良い。

『まちを支える』グループ（①都市基盤、②産業）

【会長】

- ・都市基盤については、5つに分けて、都市空間、公園などの機能、交通体系、上下水道・河川、都市基盤の市の各種施設、公共交通について議論した。
- ・名鉄の撤収は困る、タクシーが全然捕まらない、水道水の不安などの意見があったが、全体の話の方向としては、空き家問題を解決することで交通の問題、行政サービスの問題が非常に効率よく解決していくのではないかといいものであった。駅周辺の空き家を活用して、不便と感じている人たちに来ていただいて、便利なエリアをつくるのも手である。空き家問題は問題ではなく、チャンスではないかの話があった。都市基盤に関して、空き家問題に集約される問題を解決していくと、他の問題も解決しやすくなる。
- ・産業については、様々な方向性やチャンスがあり、工業、商業、観光交流、農業、雇用、この5つについて議論を行った。
- ・基本的に各務原は工業が経済を引っ張っており、さらに強くしていくには、先端技術、航空宇宙を前面に押し出して、そういった企業に来ていただくことで、さらに高度な産業にしていける。そのためには、交通ネットワークの問題、産官学の連携、特に大学が2つあるが、理系の学部や工業高校をつくるなど、ものづくりに対する学生からの教育が大事になる。
- ・多くの若者が来てもらえるまちづくりとして、各務原の良いところである田舎とまちの両方を持っている点をアピールできると良い。
- ・商業に関しては、イオンが前面に出るが、商店街の問題にも対応していく必要がある。
- ・観光に関しては、観光施設が分散していて各務原の知名度がないという話の中で、良い例となっているホッケーを参考に、少しマイナーなスポーツを木曾川河川敷の競技場などに入れて、各務原でないと成立しないという立ち位置に立つと、日常的に多くの方に来ていただけるのではないかといい。そのためにはホテルの誘致、会議場の整備、そのためには夜のまちの発展が必要と広がっていく。
- ・農業に関しては、道の駅が欲しい。各務原市の農家の方は市外に出荷しており、残念である。道の駅を作り、例えば鵜沼宿と連携することで大きな観光資源になり、観光ともつながってくる。各務原市独自の食料自給率を出して、食に対する意識を高めたら良い。農業に関しては空き家と同様、空き農地も出てきているので、集約していくのも大事な視点である。
- ・産業については、いろいろな方向性で広がりがあり、この後のまとめに期待したい。

【会長】

- ・今回はグループ対話形式で、委員の間で意見交換ができた良い機会だったと思う。本日の内容は今後予定している基本計画の検討につなげていきたい。

	<p>3 その他</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の会議の日程は、令和6年2月2日金曜日の9時半から2時間程度で、場所は本日と同じ会議室での開催を予定している。 <p>4 閉会</p> <p>【会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以上をもって第4回各務原市総合計画審議会を終了する。
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回総合計画審議会開催概要
<p>備考</p>	